

福井県敦賀市

敦賀市立角鹿小中学校



2階低学年の男子トイレは敦賀市で毎年夏に執り行われる「とうろう流しと大花火大会」がモチーフ。壁一面に広がる花火のデザインは、モザイクタイルの施工ワークショップで作成された。

愛着が湧くトイレづくりに 関係者全員で取り組んだ

敦賀市の風景を トイレデザインに反映

敦賀市立角鹿小中学校は敦賀市初となる施設一体型の小中一貫校です。三つの小学校と、一つの中学校の統合により、2021年4月に開校しました。施設一体型の小中一貫校は、公立では福井県にとっても初めての事例です。敦賀市教育委員会教育総務課の杉村祐介さんは「学校自体のコンセプトはもちろん、トイレの設計も含め、すべてが初の試みでした」と話します。

同じ校舎内で9年間を過ごすことから、角鹿小中学校では子どもたちの成長段階に合わせて、教室や廊下、トイレなどの学習環境に変化がつけられています。「成長の実感が得られるよう、建築として何ができるのか考えました」と話すのは、設計を担当した東畑建築事務所の久保久志さん。教室や廊下の壁面には福井県産の杉を使用し、学年が上がるにつれて明るい色から落ち着いた色になるよう、少しずつ変化を加えています。

さらに、2学年に「つずつ割り当てられているトイレでは、「とう

ろう流しと大花火大会（小学1・2年生）」「敦賀港（小学3・4年生）」「敦賀赤レンガ倉庫（小学5・6年生）」など、敦賀市の歴史形成に深く関わる風景や文化をモチーフとし、成長の実感とともに地域への愛着を育むデザインが採用されています。

ワークショップで 現場の声を集めた

今回のトイレの設計に当たっては、児童を対象にして設計ワークショップが開催されました。

「トイレは毎日使うものですし、家にもあるものですから、子どもたち自身もいろんな要望を持っています。そのような意見を取りこぼさないためにも、ワークショップを開催しました」（久保さん）

最初のワークショップでは、当時の小学5・6年生に「今の学校トイレのいいところ／悪いところ」を挙げてもらいました。「悪いところ」で最も多かった意見は「におい」、次いで「暗い」。新しいトイレの要望としては「きれいなトイレ」「カラフルなトイレ」「アイランド型の手洗い場」「松葉杖の人も利用しやすい広いトイレ」など、さまざまな意見が挙がりました。これらの意見を反映し、アイランド型の手洗いコーナーをはじめ、各トイ



2階低学年トイレの入り口。トイレ前にはベンチが設けられ、子どもたちの交流の場や荷物置きとして機能している。



2階低学年の女子トイレ。さまざまな利用者を想定し、手すりが設置されている。大便器は全学年とも暖房便座を採用。



モザイクタイルの施工ワークショップの様子。貼り板の大きさに合わせて、統合3小学校の全児童がモザイクタイルを並べた。



2階中学年のトイレ入り口。トイレ内だけでなく、入り口にも手洗い場が設置されている。交流スペースとして、円形のベンチも。

レに広めのスペースを取った大便器ブースを配置。杖をついていても出入りがしやすいよう引き戸にするなど、子どもたちの意見が設計に落とし込まれています。

そして実際の施工の段階では、トイレの内装に使用されるモザイクタイル並べや、土壁用の土の採集といったワークショップも開催されました。

不安から一転

新しい学校が楽しみに

「今回、四つの学校が統合することに対し、子どもたちはもちろん保護者の方など、不安をお持ちの方もいたと思います。ですが、そのような不安もワークショップを通じて『この学校で9年間学んでいくんだ』というワクワクに変えることができました」と小島義和教頭先生（取材時）。新しいトイレは学校を訪れる人にも好評といえます。

「トイレはどうしても『汚い』『暗い』などネガティブな場所になりがちです。ですが、子どもたち自身がトイレづくりに携わることができれば、愛着を持ちやすい空間になると思います」（久保さん）

「新しい学校づくりに携われるという自体がなかなかない経験ですし、子どもたちにとってもいい思い出になったと感じています」（杉村さん）



(上)「敦賀赤レンガ倉庫」をモチーフにデザインされた3階高学年女子トイレ。アイランド式の手洗い場も、当時5・6年生の児童が提案。

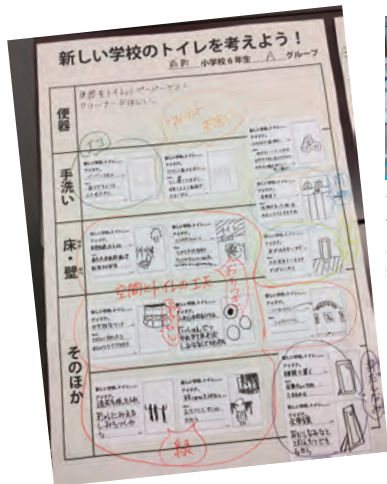
(右)2階中学年男子トイレのテーマは「敦賀港」。壁面に時計を設置したのは、ワークショップで挙がった意見から。



(上)天筒メディアセンター(左)中庭
学校内では異なる学年間の交流を促進する工夫が随所に見られる。



トイレサインは敦賀という地名の由来とされている「都怒我阿羅斯等(ツナガアラシト)」の特徴の角部分をピクトグラムに取り入れた。

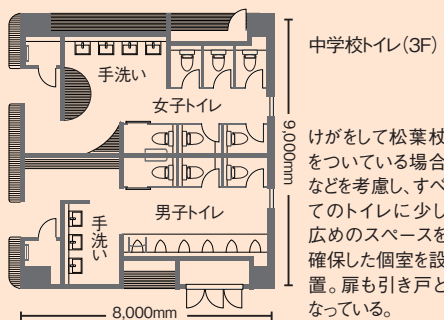
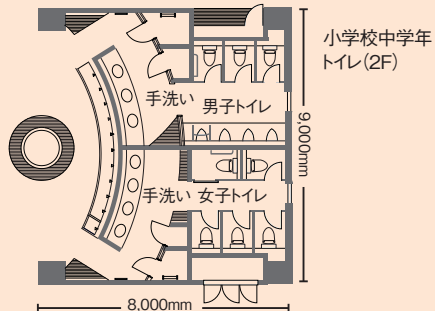
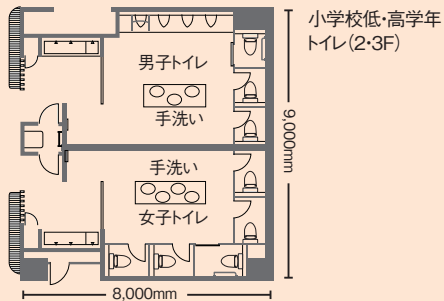


今回の設計には梶山(すぎやま) 女学園大学橋本(はしもと) 雅好研究室の研究生も参加。

ワークショップで子どもたちから挙げた意見。「木材を使ったトイレ」「くつろぎスペースがほしい」などさまざまなアイデアが。

敦賀市立角鹿小中学校 DATA

名称：敦賀市立角鹿小中学校
 所在地：福井県敦賀市角鹿町6-1
 児童・生徒数：415名(2021年5月)
 施主：敦賀市
 設計・監理：東畑・エコー設計共同体
 施工：永和住宅(建築)
 前田設備工業、北陸サーマルJV(設備)
 竣工年月：2021年3月(全体竣工は2023年)



けがをして松葉杖をついている場合などを考慮し、すべてのトイレに少し広めのスペースを確保した個室を設置。扉も引き戸となっている。



3階中学校女子トイレは「気比(けひ)の松原」をイメージ。壁面の土壁に使用されている土は、子どもたちが参加したワークショップで統合校などからそれぞれ採集された。



(左)1・2階の特別教室横には男女別トイレとは別に「みんなのトイレ」を設置。車いす使用者もゆったり使用することができる。(中)「みんなのトイレ」は内外とも木目調の落ち着いたデザイン。手洗い場には大きな鏡を設置した。(右)3階中学校男子・女子トイレ壁面の土壁に使用する土の採集の様子。



(左)1階にはオストメイト対応設備や乳幼児連れなどさまざまな利用者に配慮したバリアフリートイレを設置。(右)3階中学校女子トイレ。コミュニケーションの場になるよう、トイレ内にも大きなベンチが設けられている。



(上)教職員の間から「手洗い場の混雑を避けたい」という意見が挙がり、学年トイレ前の手洗い場とは別のフロア中央部分に広々とした手洗い場を分散して設置した。

(左)階段部分にはテラスを設置。異なる学年間の交流を促進する役割に。

(右)バリアフリートイレにはフィッティングボードに加え、ベビシートやベビーチェアなどの設備も。